

平成30年度サクラマス幼魚（スモルト）放流式

5月25日（金）、老部川内水面漁業協同組合（西山忠一組合長）のサクラマスふ化場で、村内各漁協をはじめ、県・村関係者等60名出席のもと、サクラマス幼魚（スモルト）放流式が行われました。

この放流事業は、主に沿岸海域でのサクラマスの水揚げ増大を図ろうと、昭和60年のサクラマスふ化場完成とともに毎年実施しているものです。

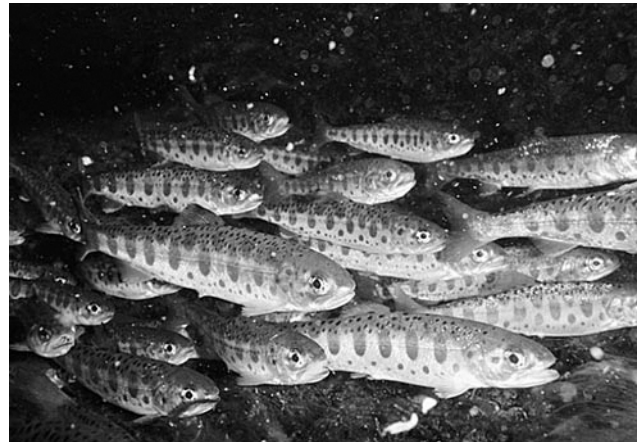
今回のサクラマス幼魚（スモルト）放流式では、平成28年8月中旬から10月上旬にかけて老部川に遡上した親魚から採卵した幼魚と、3年間飼育した池産系親魚から採卵した幼魚で、ふ化してからおよそ1年6ヶ月間飼育した平均尾又長12.5センチ、平均体重21.0グラム程度の幼魚1万尾が関係者の手により放流されました。

なお、今年は全体で幼魚約7万1千尾、稚魚約12万9千尾の計約20万尾を、村内の河川に放流する予定となっています。

今後も継続的にサクラマス幼魚や稚魚放流を実施することで、沿岸海域での水揚げと河川回帰の増大に、大いに期待がもてるものと思われます。



関係者による放流の様子



放流されたサクラマス幼魚

平成30年度東通村植樹祭

6月9日（土）、尻労共有林において平成30年度東通村植樹祭が行われました。

この植樹祭は、東通村緑化推進委員会（越善靖夫会長）が「森林保護と森林が作り出す水の循環による豊かな漁場づくり」を目的として、平成13年度から毎年実施しているもので、今年で18回目を迎えます。

参加者は、村内各漁業協同組合長、東北電力、東京電力ホールディングスのほか、関係者やボランティアなど約180名。

来賓の方々によるオオヤマザクラ11本の記念植樹と、参加者全員によるコナラ、ヤマモミジ、ブナ、トチ、ミズナラの5種類の苗木550本の植樹が行われました。



朝から小雨が降る中、180名の方々が参加



植樹の様子



子どもたちも植樹

森が作る栄養素は、雨水に溶け、川を通して海に流れ、海藻や魚の餌になるプランクトンを育てます。

私たちの暮らしを支える豊かな森を守り、実り豊かな漁場を維持するため、今後も「育てる活動」に積極的に取り組んで行きます。